

魅力と活力あふれる持続可能な農村(むら)づくり

元気で豊かな中山間地域の次世代への継承

<現状と課題>

- 中山間地域等は、県土面積の約7割、農地面積の約4割を占めており、県の農業・農村を支える重要な地域である。
- しかし、過疎化や高齢化の進行により、集落の維持は困難となっており、農業・農村の有する多面的機能の発揮が危惧されている。
- また、平坦地域に比べ、生産条件は不利で、体質強化やスケールメリットを生かした競争力強化は限界がある。
- このような中、中山間地域の農業を継続し、持続可能な農村を維持するためには、**日本型直接支払制度**による**地域活動の下支え**に加え、**地域コミュニティ機能の維持・強化**が必要。
- また、農業を柱とした取組みの高度化による**多様な所得の確保**、地域資源やデジタル技術を活用して**地域課題を解決しつつ地域活性化に繋げる取組み**、**関係人口の拡大**など地域のニーズに応じた支援が必要。

<これまでの中山間地域対策>

- H12～継続 中山間地域等直接支払(農業**生産条件の不利補正**)
- H26～継続 多面的機能支払(多面的機能を支える**共同活動**、地域資源の**資質向上**)
- H25～R5 里モンプロジェクト(地域住民による**活動の芽吹き**)
- H29～R5 中山間農業モデル地区(**農業所得+α**)
- R2～継続 棚田地域振興推進
- R3～R5 スーパー中山間地域の創生
(農林水産業を柱とした**新たな経済循環+関係人口拡大**)
- H25～継続 多様な人材と所得確保策の取組み支援
(むらづくり人材育成、農人ボランティア、農泊推進等)



「しごと」「ひと」「くらし」など地域ニーズの総合的支援による県中山間地域全体のボトムアップ <元気で豊かな中山間地域の次世代への継承>

◆地域で支えあう農村RMOモデル形成

- **将来ビジョン実行支援**(山鹿市、球磨村)
- **将来ビジョン・取組計画策定支援**(6地区)
- 単一集落から複数集落での**活動の協働化**
(複数集落による効率化・省力化)

◆多様な所得確保策の取組み支援

- スーパー中山間地域の**デジタル技術活用**支援
- 中山間農業モデル地区の**農業ビジョン達成**支援
- モデル地区やスーパー中山間地域の**事例波及**
- **県域ネットワーク**を活用した農泊の推進
- むらづくり人材・コーディネーター育成

<農業・農村の有する多面的機能の発揮>

◆中山間地域等直接支払による農業生産の維持や地域の活性化

- 農業生産活動、多面的機能を増進する活動の推進
- 過疎化・高齢化に伴う**協定集落の統合や事務処理の一元化**

◆多面的機能支払による農村協働力の強化

- 活動組織の**広域化や未実施地区への推進**
- **田んぼダムの取組推進**
- **自然災害への備え**



デジタル技術の導入

地域資源の活用

都市住民との交流

◆中山間地域における多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化

- **地域活動**の推進(人材育成、農地等の保全や利活用)
- **棚田の保全や利活用**の推進
- **多様な人材の確保**(農人ボランティア、交流)

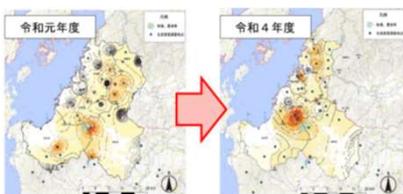


直営班の設立

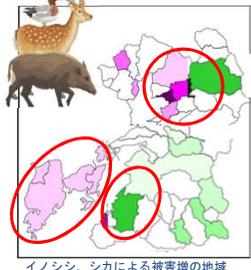
野生鳥獣農作物被害防止対策

<現状と課題>

- 野生鳥獣による農作物被害は、ここ数年**約5億円で推移**
- 地域ぐるみで集落の環境整備と管理を行う「**えづけSTOP! 対策**」の取組み強化と担い手の確保が必要
- 鳥獣の**生息域の変化に伴う被害**が増加
(大規模な露地野菜産地でのカモ類、人里近くでのイノシシ、樹園地でのシカ等)
- 捕獲された野生鳥獣を地域資源として有効活用するため、**コンソーシアム活動**を通じた「**くまもとジビエ**」のブランド化を推進



芦北地域におけるシカの生息状況調査(R1-R4)



イノシシ、シカによる被害増の地域

- 野生鳥獣による農作物被害の減少に向けて、「**えづけSTOP! 対策**」を**基本とした被害防止対策**の継続・強化が必要
- 鳥獣の生息域の変化に伴い被害が広域に及ぶ重点地域において、**広域連携による地域一体的な被害防止対策**への取組みが必要

<野生鳥獣による農作物被害防止対策の推進>

- 野生鳥獣が生息しにくい**環境整備と管理**
 - ・「**えづけSTOP! 対策**」の着実な推進と「えづけSTOP! 実践塾」による**人材育成の強化**
 - ・イノシシ・シカ等被害が拡大している重点地域(3地域)における**広域的な被害防止対策の推進**
- 農地への**侵入・被害防止**
 - ・国交付金、県単補助等の活用による**侵入防止柵**の整備
 - ・**DXやGIS**を活用した戦略的鳥獣被害防止対策の展開
- 有害鳥獣の捕獲**
 - ・有害鳥獣捕獲従事者等との連携による**捕獲活動の強化**
 - ・九州各県と連携したシカ・イノシシの**広域一斉捕獲**の実施
- ジビエ利活用の推進**
 - ・コンソーシアムを核とした**ジビエのビジネス化**
 - ・くまもとジビエ料理フェア、ジビエ甲子園の開催



<広域連携による鳥獣被害防止対策の推進>

- 地域一体的な被害防止対策への取組み**
 - ・菊池、芦北、天草地域の**3地域を重点地域に設定**(R4)
- 重点地域の取組状況**
 - ・連携体制の整備：芦北地域鳥獣被害防止対策広域連絡協議会の設立(R5)
 - ・連携会議、研修会等の実施：鳥獣被害防止強化月間の設定による地域活動の強化
 - ・野生鳥獣の生息状況調査：**イノシシ・シカの生息分布調査**(R4芦北、R5菊池、R6天草)
 - ・**鳥獣被害防止対策の見える化**：被害対策(防護柵設置)・捕獲情報の農地GISアウトプット
 - ・被害防止対策のモデル実証：防護柵モデル園の設置
 - ・捕獲の強化：実践塾による捕獲研修、ICT技術を活用した捕獲確認アプリの効果検証



実践塾による捕獲研修(講義及び現地実習)

持続可能なむらづくり